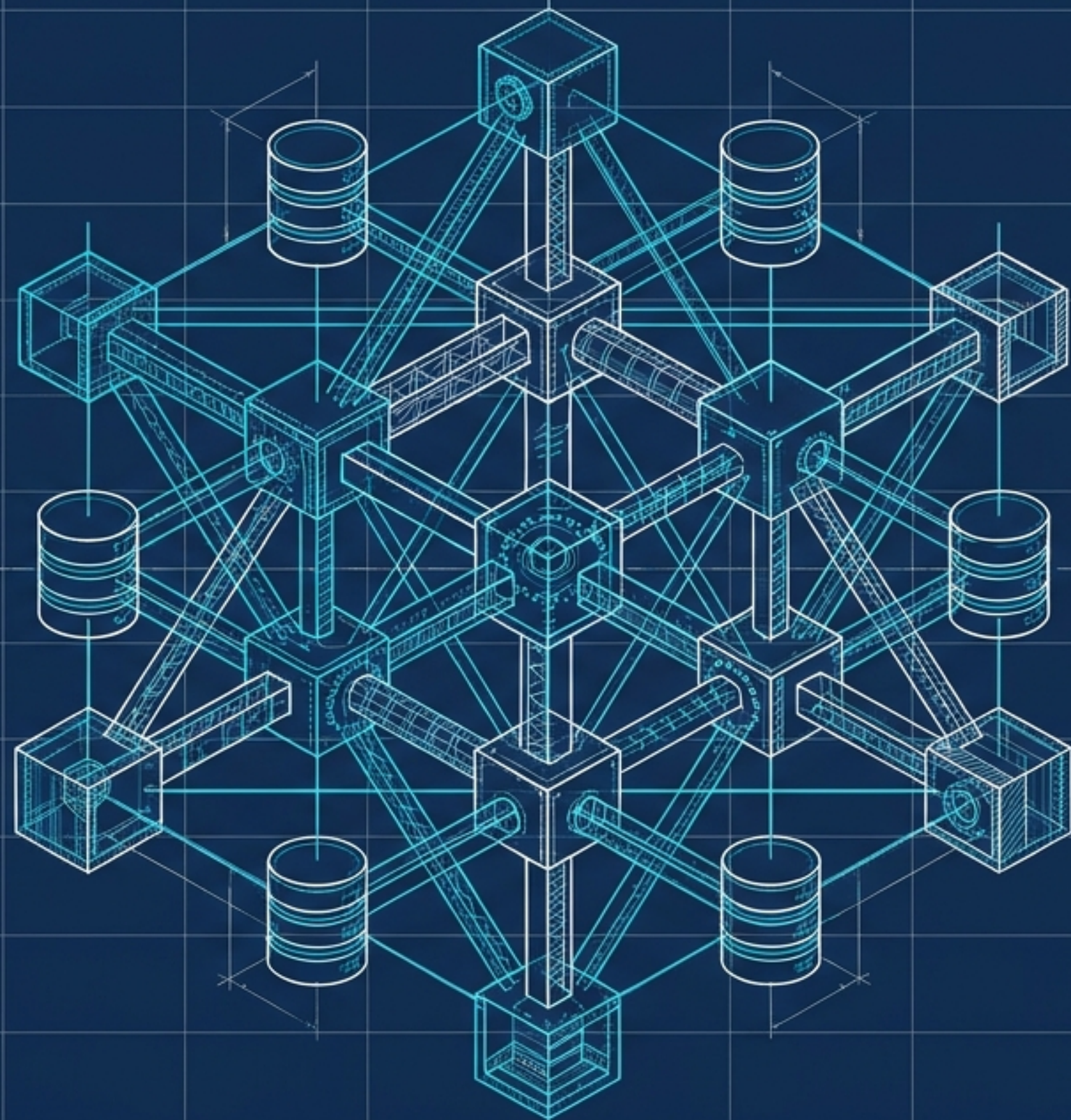


特許特化型生成AI： 技術アーキテクチャ の解剖と導入戦略

「エージェント型」対「従来型」—
自律性の境界線と知財ワークフロー
への実装ロードマップ



Architecture Blueprint Report

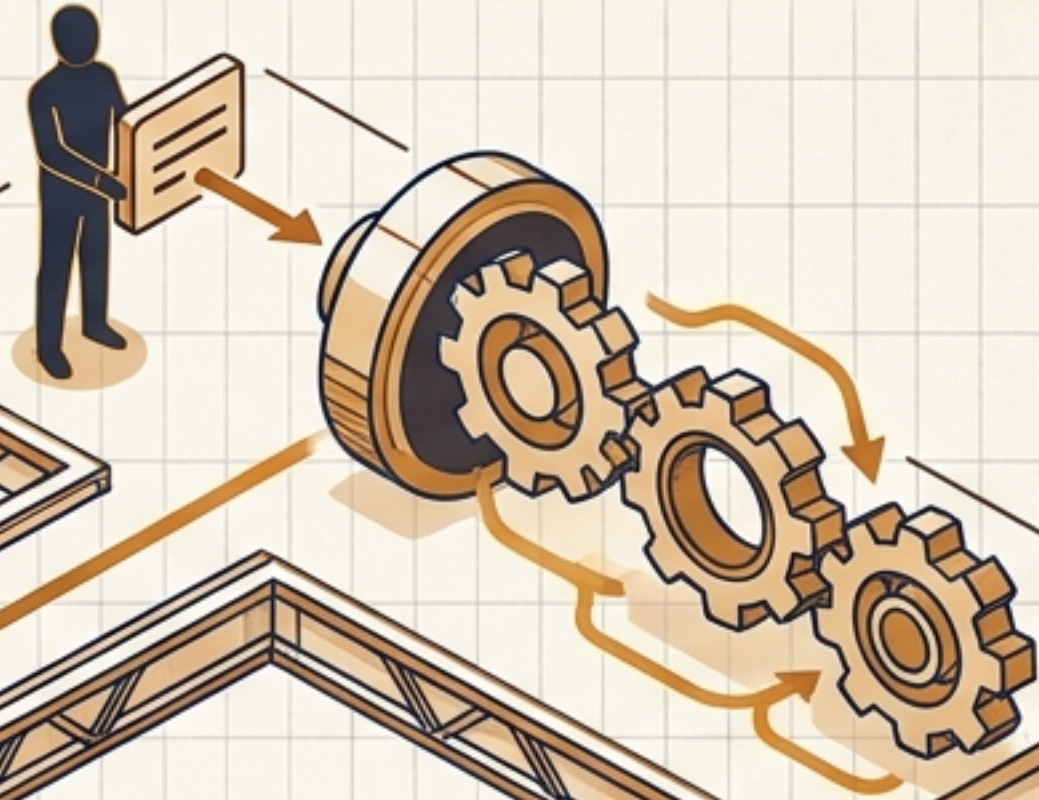
従来型（指示駆動）

個別タスクの高速化



エージェント型（目標駆動）

多段ワークフローの自律実行

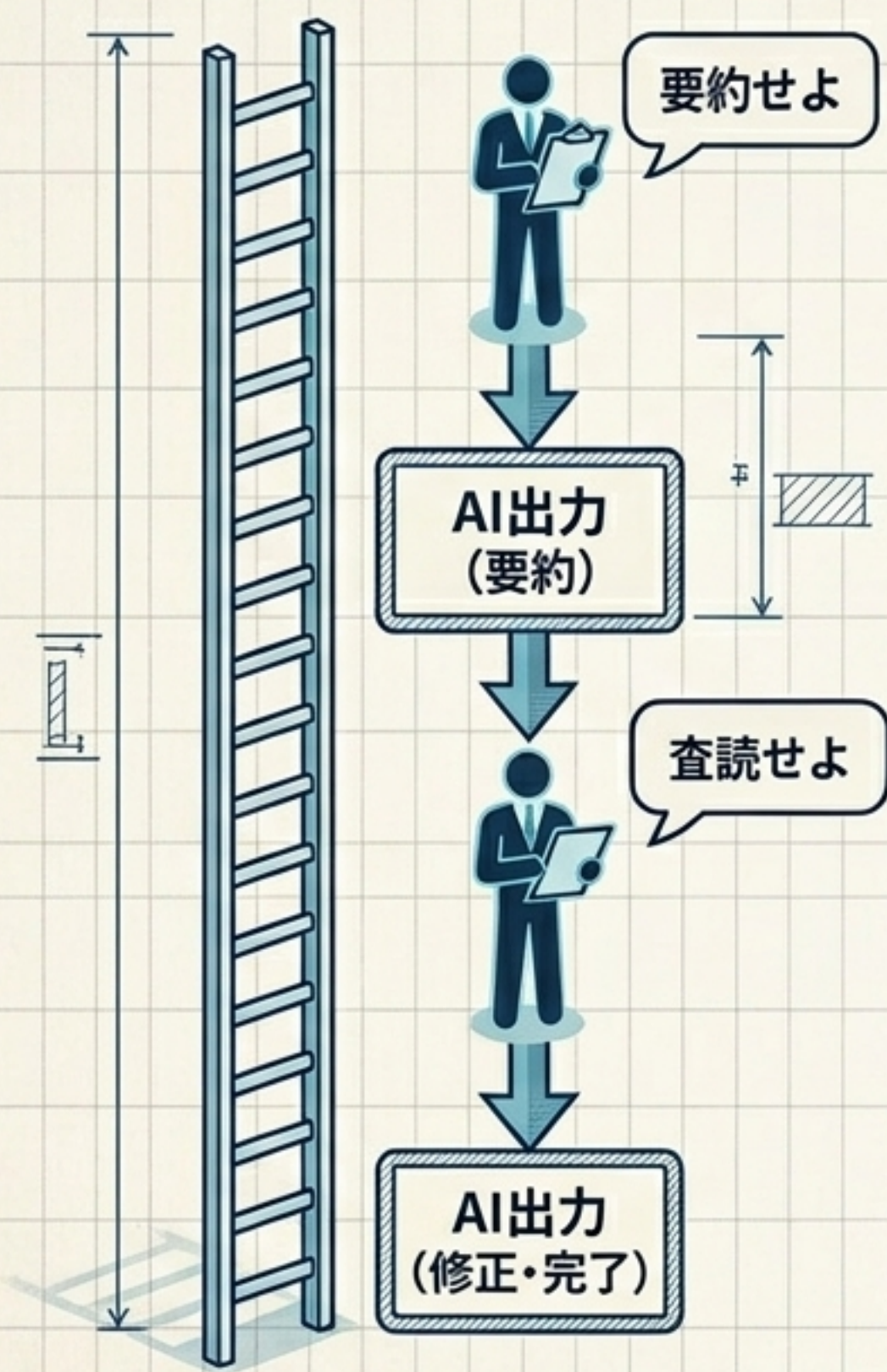


生成AI

知財実務における本質的なパラダイムシフトは、ツールの機能数ではなく、
アーキテクチャの「自律性（Autonomy）」のレベルにある。

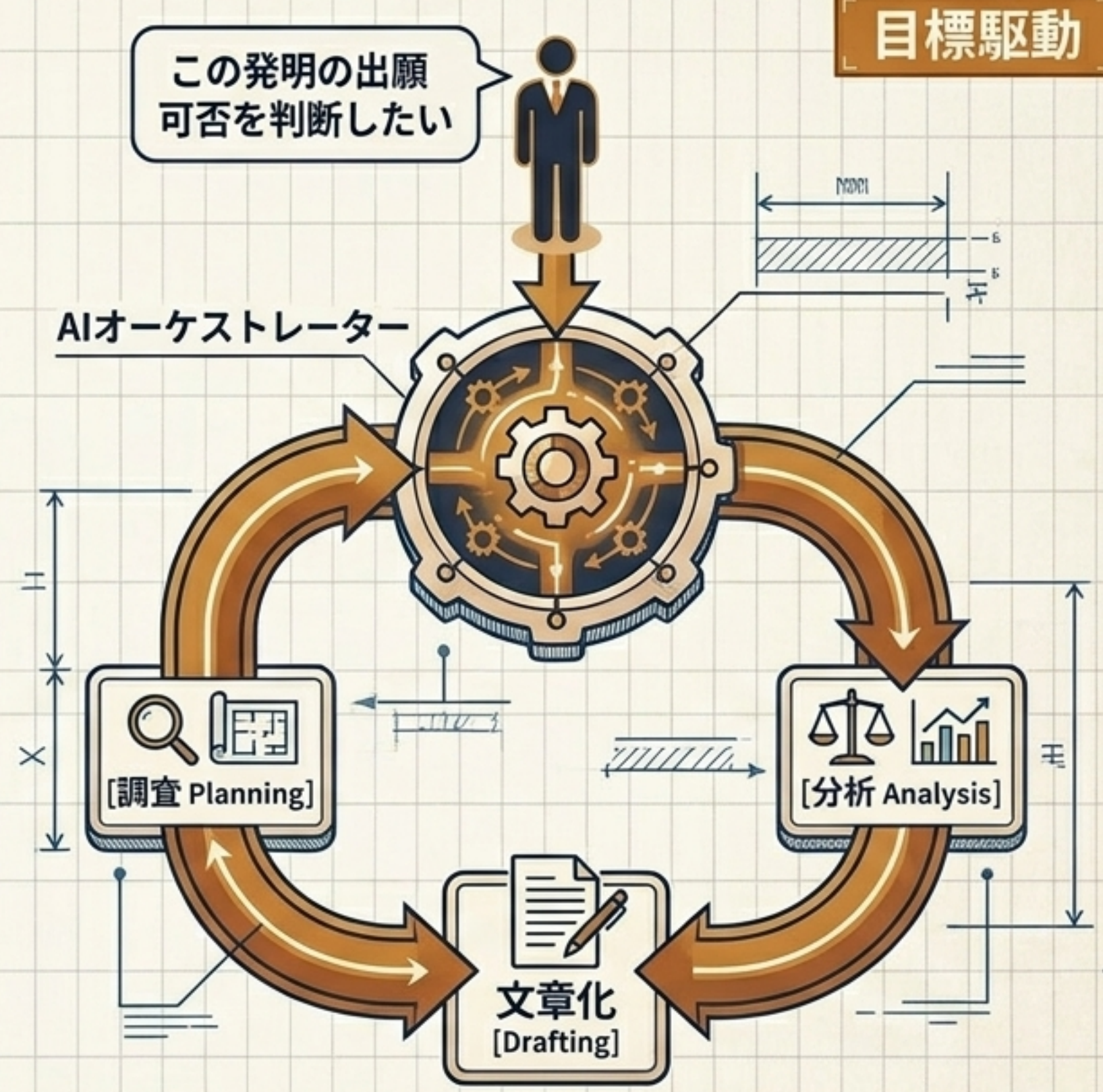
「補助ツール」としてのAI

指示駆動

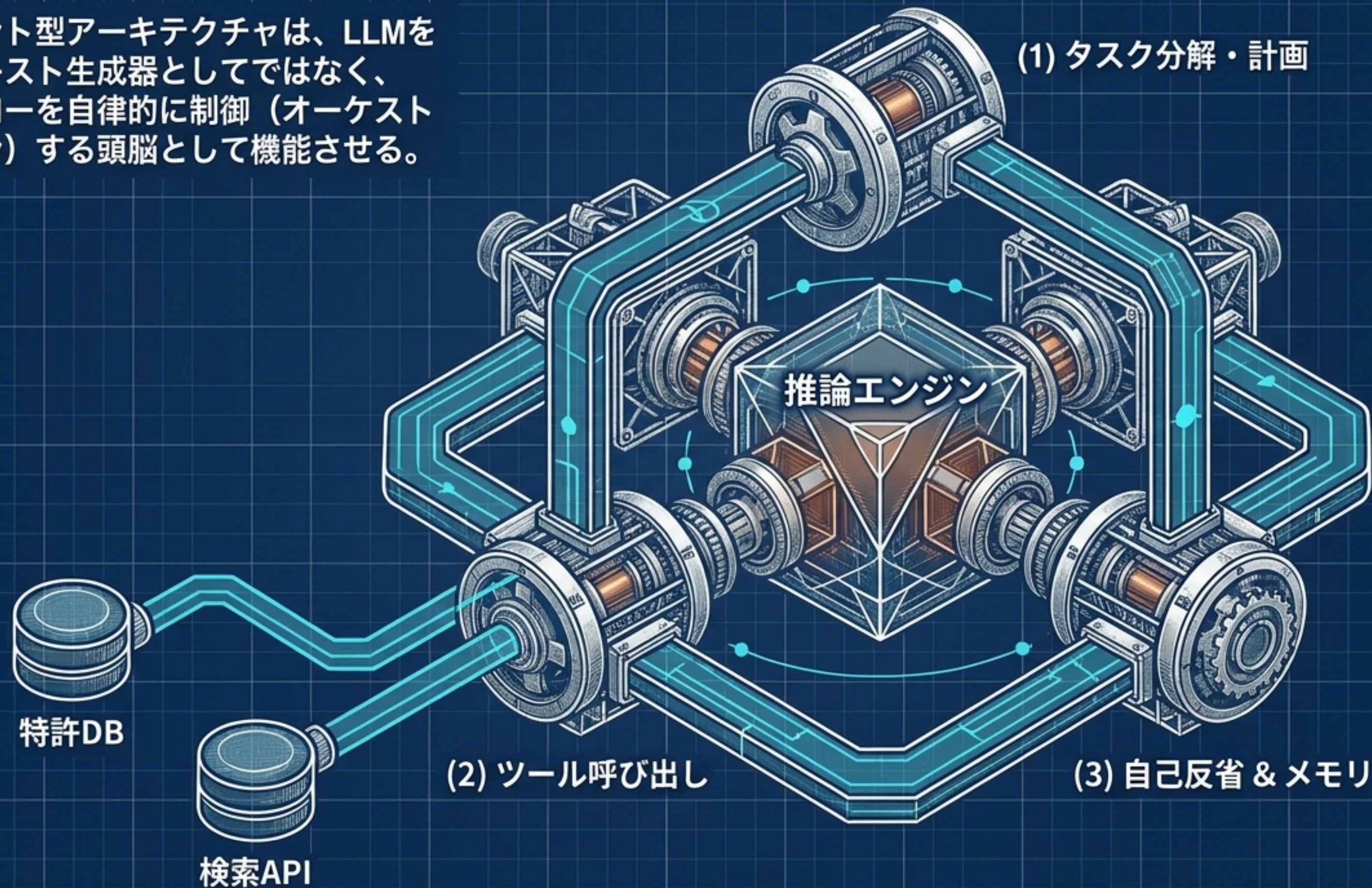


「思考パートナー」としてのAI

目標駆動



エージェント型アーキテクチャは、LLMを単なるテキスト生成器としてではなく、ワークフローを自律的に制御（オーケストレーション）する頭脳として機能させる。



指示駆動型

高頻度・細粒度の介入



エージェント型

低頻度・粗粒度の介入



初期計画



最終確認

エージェント型は介入頻度が低いため、
「説明可能性（思考プロセスと根拠の可視化）」
が設計上の最重要課題となる。



多段ワークフロー

自動化の範囲

単一タスク

指示駆動

自律性のレベル

目標駆動・完全自律

ワークフロー支援領域

エージェント領域

Summaria

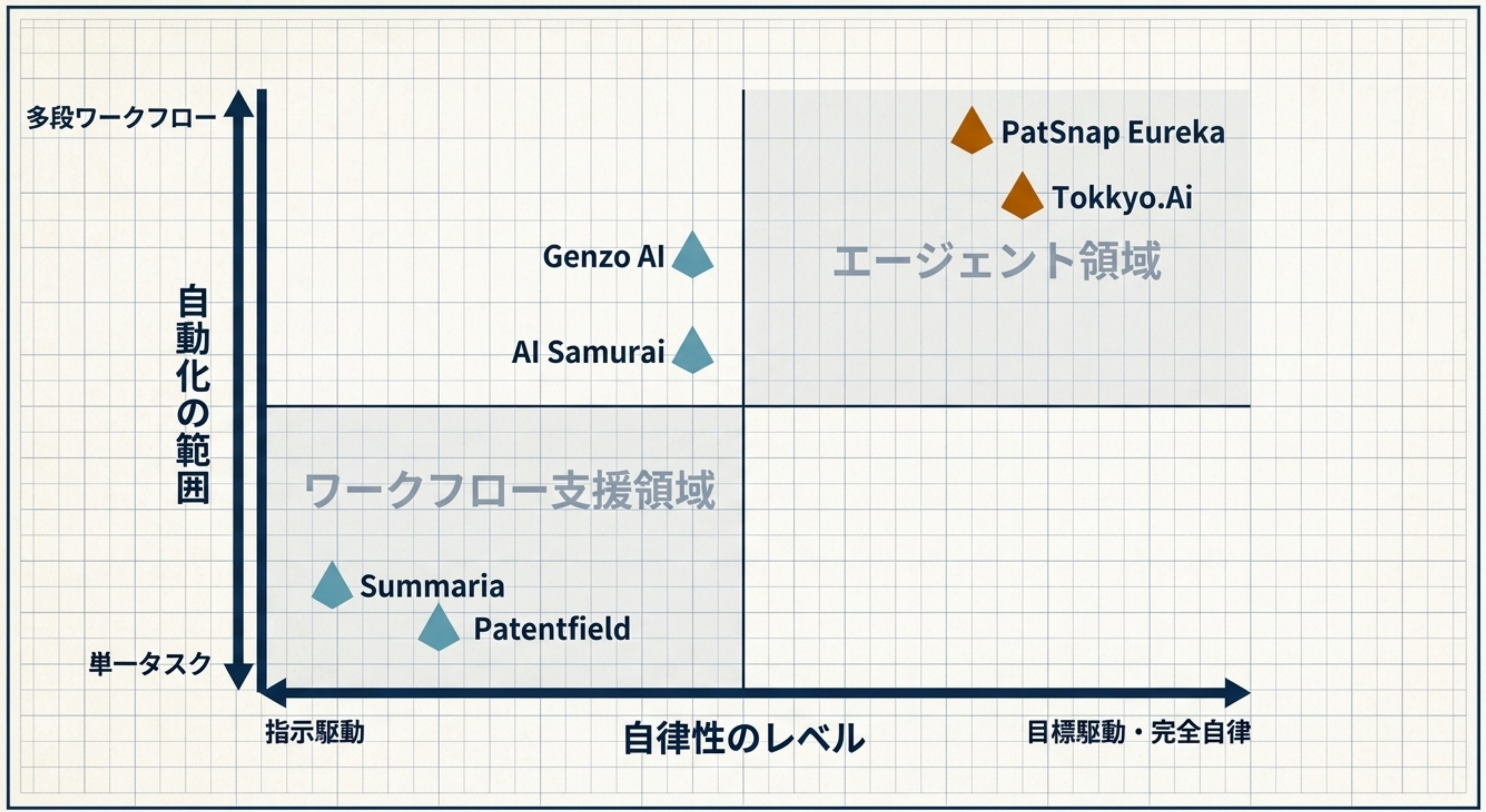
Patentfield

AI Samurai

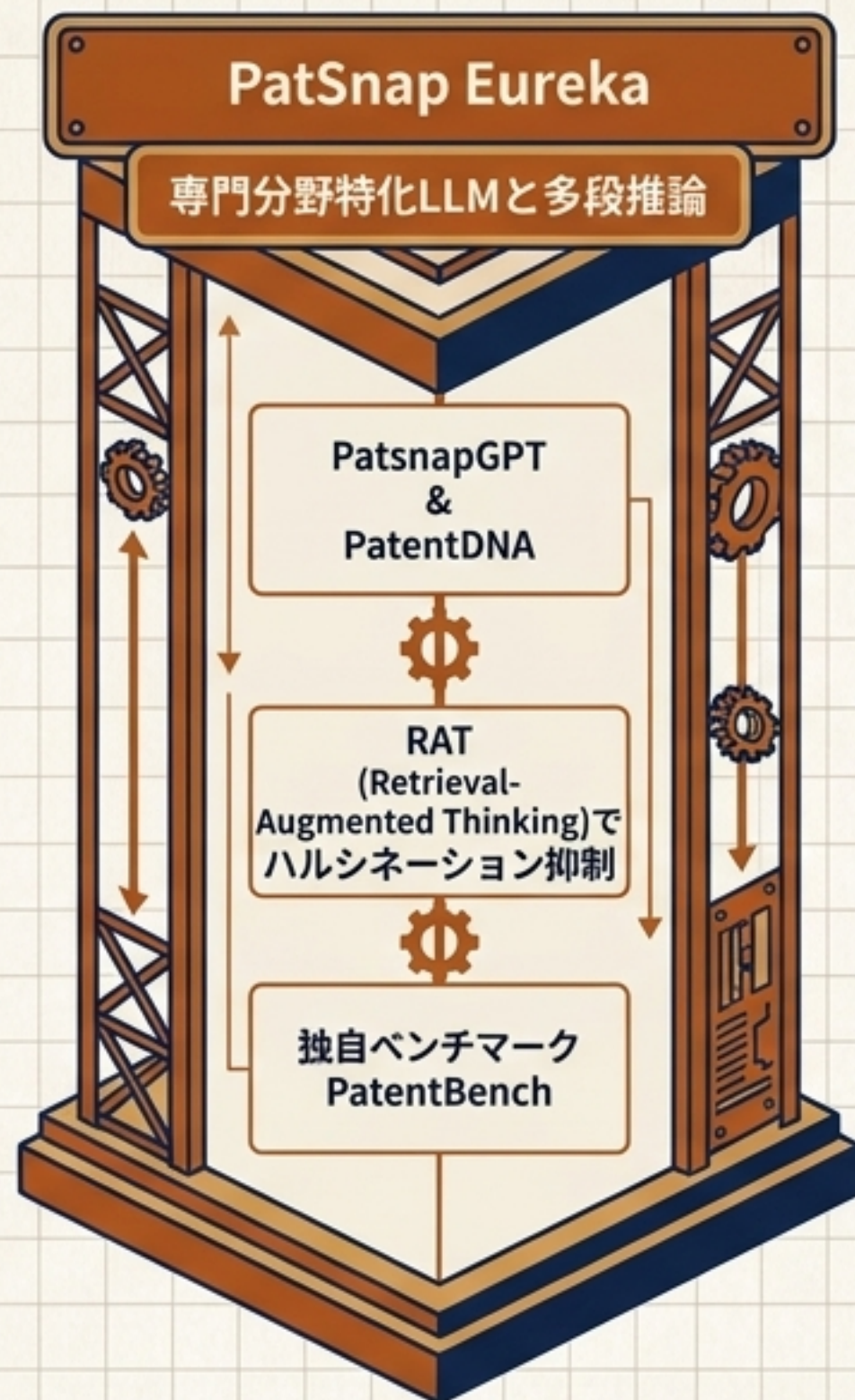
Genzo AI

PatSnap Eureka

Tokkyo.Ai



エージェント・パイオニア：ブラックボックス問題への技術的解法



Genzo AI

暗黙知の形式知化（プロンプト設計）
を中核とする厳格なHITL設計。

- ▲ 島津製作所で年間8,000万円の外部コスト削減
- ▲ 発明スクリーニングの手作業を90%削減

Summaria

特許文書の「読解支援」に特化。
ユーザー指示に基づく単発の用語説明・要約・スクリーニング処理。

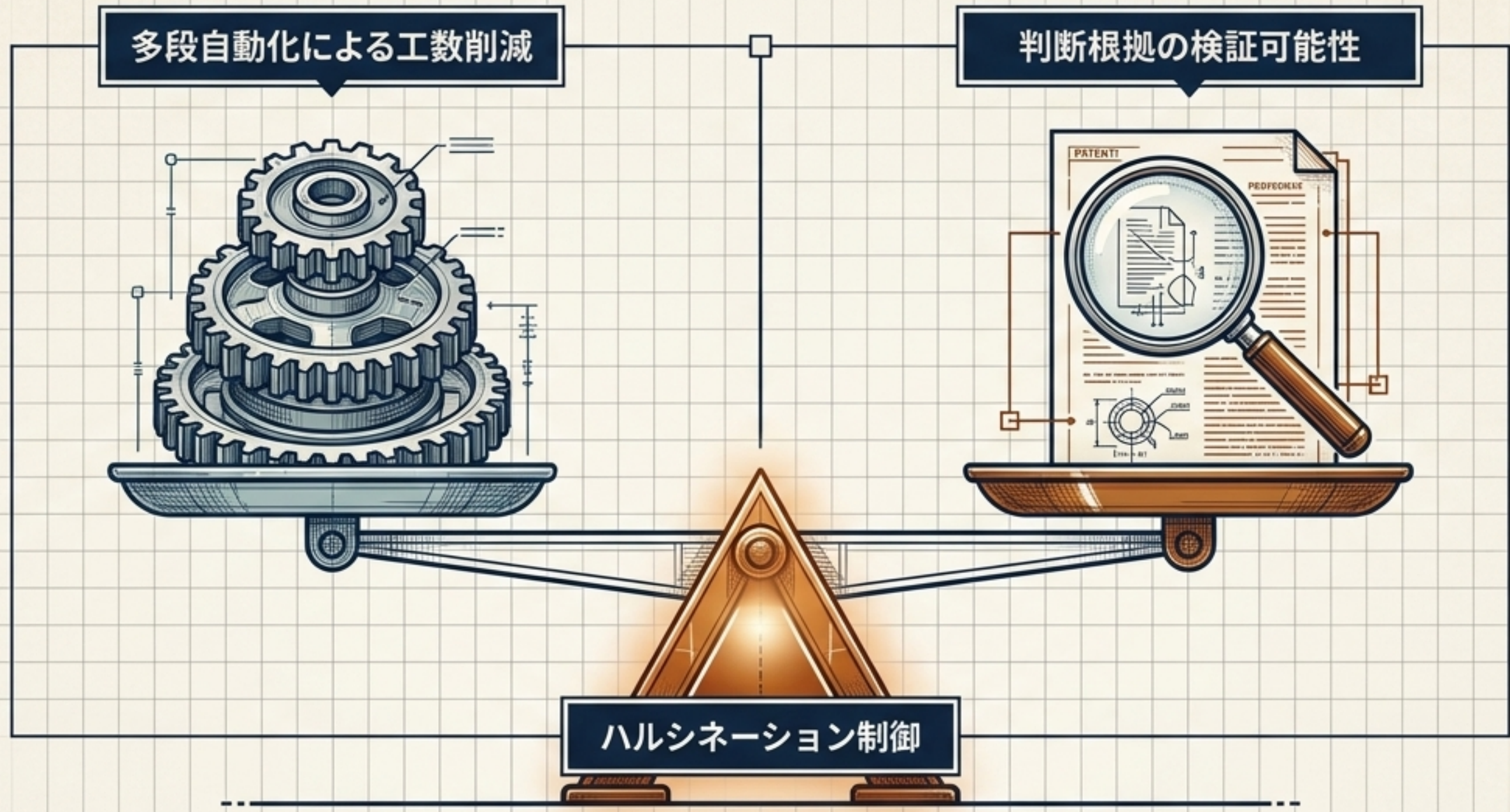
AI Samurai

独自の自然言語処理AIで特許文章を
構成要素単位に分解。特許性をA~Dで
クイック評価し、GPT-3.5で文書作成
を支援。

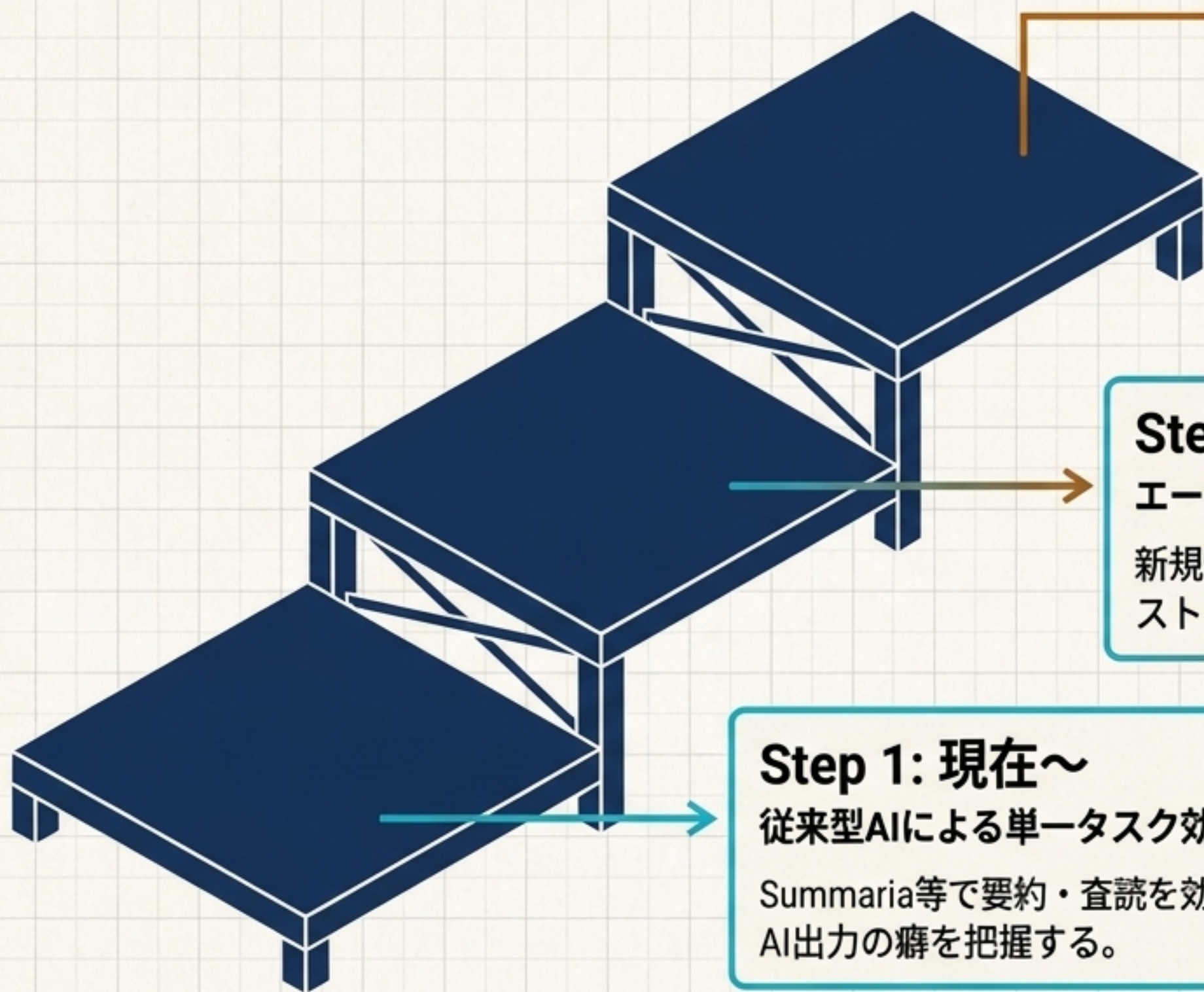
Patentfield

Patentfield AIRオプションにより、
最大1万件の検索母集団に対して好みの
生成AIモデルで一括査読・要約を実行。

	PatSnap Eureka	Tokkyo.Ai	Genzo AI	Summaria	AI Samurai	Patentfield
自律性	目標駆動	目標駆動	指示駆動	指示駆動	指示駆動	指示駆動
タスク自動分解 ・計画	●	●	○	○	○	○
ツール自動連携	●	●	○	○	○	○
HITL組み込み	ソース紐付け	思考プロセス 可視化	人間確認前提	ユーザー主導	ユーザー主導	ユーザー主導



エージェント型AI導入における最大の壁は、この天秤の均衡である。完全自動化を追求するほどブラックボックス化のリスクが高まる。Tokkyo.Aiの「思考プロセス可視化」やEurekaの「検証ソース紐付け」は、この天秤を両立させるための技術的アンサーである。



Step 3: 未来

調査からドラフトまでの一気通貫

精度と検証ハードルをクリア後、
エージェントAIに知財プロセス全体を
オーケストレーションさせる。

Step 2: PoC段階

エージェント型の限定ワークフロー導入
新規性スクリーニング等の限定領域でテ
ストし、説明可能性の閾値を見極める。

Step 1: 現在～

従来型AIによる単一タスク効率化

Summaria等で要約・査読を効率化し、
AI出力の癖を把握する。

「AIをどのツールにするか」ではなく、「組織の知財プロセスをどう再構築するか」が導入の真の論点である。